

(74)

氏名(生年月日)	喜 多 みどり
本 籍	
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第888号
学位授与の日付	昭和63年2月19日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	頭頸部腫瘍の頸部リンパ節転移(扁平上皮癌)に対する放射線治療効果に関する臨床的検討
論文審査委員	(主査)教授 重田 帝子 (副査)教授 石井 哲夫, 教授 降矢 熒

論 文 内 容 の 要 旨

目的

頭頸部腫瘍の頸部リンパ節転移は、一般に上咽頭癌を除いては根治的頸部郭清術の適応となることが多い。しかし原発巣の進行度、頸部リンパ節転移の進展度、年齢、合併症の有無、一般状態など腫瘍側因子や患者側因子によりしばしば放射線治療の適応となる。

本論文では頭頸部腫瘍の大部分を占める扁平上皮癌の頸部リンパ節転移に対する放射線治療効果について検討を行った。

対象および方法

1968年から1985年までに放射線治療がTDF(Time Dose Fractionation Factor)で65(40Gy/20回/4週)以上施行された頭頸部原発頸部リンパ節転移(扁平上皮癌)71例、135個を対象とした。

放射線治療は $^{60}\text{Co}\gamma$ 線または電子線を用い、多くは $^{60}\text{Co}\gamma$ 線では1回線量2Gy、週5回法、電子線では1回線量3Gy、週3回法であった。総線量は全例TDFに換算した。

放射線治療後の腫瘍縮小効果判定は日本癌治療学会の固形がん化学療法直接効果判定基準に従い、著効(complete response, CR), 有効(partial response, PR), 不変(no change, NC), 進行(progressive disease, PD)とした。

結果および考察

(1) 放射線治療終了後1ヵ月での一次効果の著効率は102/135:75%であり、奏効率(CR+PR)は125/135:93%であった。著効率は原発巣別でみると上咽頭

癌で65/68:96%、上咽頭癌以外の癌(中咽頭癌, 下咽頭癌, 舌癌, 喉頭癌, 上顎癌)で37/67:55%であった。

(2) 一次効果をリンパ節の大きさと線量(TDF)で検討すると、全体では3cm以下のリンパ節では著効率は81/98:83%であり、3cm以上では21/37:57%であった。ほとんどが低分化型である上咽頭癌は3cm以下の場合はTDF65以上照射されていれば局所制御可能であり、3cm以上のものではTDF100以上で制御可能であった。上咽頭以外の腫瘍が主体となる高分化型および中分化型扁平上皮癌では、3cm以下および3cm以上の場合とも線量(TDF)と著効率は相関した。

(3) UICC分類およびAJC分類のN分類による各症例毎の一次効果の著効を比較すると、UICC分類では差はなかったが、AJC分類ではN1が最も良好であった。

(4) 放射線治療終了後、経時的に腫瘍効果を比較すると、治療後1ヵ月の時点でCRとなった102個中8個に再増悪を認めたがこれらは全例に原発巣再発または遠隔転移を伴っていた。またPRであった23個中5個はその後の経過観察でCRとなった。

(5) 2年局所制御率は上咽頭癌で19/28:68%、上咽頭癌以外の癌では15/42:36%であった。

結語

頸部リンパ節転移に対する放射線治療は有用な治療法の1つである。原発部位、組織学的分化度、リンパ節の大きさ等を考慮した放射線治療により、局所制御は可能と思われる。すなわち、上咽頭癌の頸部リンパ節

転移は大きさに関わらず局所制御が可能であり，上咽 応となりうると考えられた。
頭癌以外では3cm 以下ならば根治的放射線治療の適

論 文 審 査 の 要 旨

本論文は，頭頸部腫瘍の大部分を占める扁平上皮癌の頸部リンパ節転移に対する放射線治療効果の検討を行ったもので，原発部位，組織学的分化度，リンパ節の大きさなどが照射線量（TDF）と強く関与しておりこれらを考慮した放射線治療は，局所制御の限界を更に高め得ることが確認された。学術上，価値ある論文と認める。

主論文公表誌

頭頸部腫瘍の頸部リンパ節転移（扁平上皮癌）に対する放射線治療効果に関する臨床的検討
東京女子医科大学雑誌 第57巻 第11号
1328～1337頁（昭和62年11月25日発行）

副論文公表誌

- 1) 頭頸部悪性腫瘍における重複癌症例の検討
臨床放射線 29 (2) 289～294 (1983)
- 2) 食道癌における重複癌症例の検討
臨床放射線 29 (5) 577～582 (1984)

- 3) 切除不能腭癌に対する術中照射
癌の臨床 31 (7) 833～838 (1985)
- 4) 放射線治療における空間的線量分布の改善
—Field within a field 法—
癌の臨床 33 (13) 1639～1646 (1987)
- 5) 舌癌の放射線治療成績
日本医学放射線学会雑誌 45 (11)
1455～1461 (1985)